

1. 団体の概要

○主な活動拠点

石川県鳳珠郡能登町小木壺〇字104番(みんなのコミュニティハウス「梅の湯」ほか)

○主な事業内容

1. コミュニティ拠点「梅の湯」の企画・管理運営
2. 「梅の湯」を起点とした子どもの居場所・多世代交流事業
3. 小木・能登の魅力情報発信と関係人口・起業伴走支援

○ミッションと実績

- 「被災地に寄り添い、地域と人の『心の温度』をあげる」
- ・令和6年能登半島地震の発災直後から現地に入り、炊き出し累計約3万食、延べ5,000人以上のボランティア受入を実施
 - ・現在は能登町健康福祉課や教育委員会等から事業を受託・連携し、子どもの居場所づくりや多世代交流、復興まちづくりを展開しています。

2. 活動対象となる地域

■地理的エリア:

中心拠点(能登町小木地区)※九十九湾や港町文化を有する地域

「梅の湯」を中心に日常の賑わいと温もりを取り戻す集中支援を展開

■広域展開(能登町全域・奥能登)

アウトリーチ等を実施し、近隣市町や全国のゆかりの地を結ぶ復興ネットワークを構築

■対象コミュニティ・属性

○子ども・中高生

安心して過ごせる放課後の居場所であり、多様な大人や生き方に出会い未来を語り合える「探究型サードプレイス」

○多世代の地域住民

子ども、若者、子育て世代、高齢者など、世代を超えて日常的に集い、笑顔と役割が生まれる地域コミュニティ

○関係人口・チャレンジャー

全国のボランティアファン、移住・起業希望者、学生など

3. 地域の現状と課題

【現状】

- ・ 小木地区は古くからの漁港文化や祭り文化が息づく温かい地域ですが、震災以前からの少子高齢化・人口減少に加え、震災により生活環境やコミュニティのあり方に変化が生じています。
- ・ 震災の影響で子どもたちが自由に集える遊び場や体験機会が減少し、日常的に安心して過ごせる場所や、地域の多様な大人・外部の人材と触れ合える機会が求められています。
- ・ かつて集落のシンボルだった旧銭湯「梅の湯」を取得し、カフェ・フリースペース・ゲストハウスを備えたコミュニティハウスへの再生を進めています。ハード面の基盤と、楽笑が展開してきた居場所事業(ソフト)が整いつつあります。

【課題】

- ・ 拠点が完成しても、建物だけでは人の営みは回りません。日常的に拠点を開放し、住民一人ひとりの声や困りごとに耳を傾け、外部のボランティアや関係人口と地域をなめらかに繋ぐ「現場の中心人物」が不足しています。
- ・ 環境変化に伴う住民同士の関わりの希薄化、孤立化を防ぎ、多世代が気軽に立ち寄ってたわいもない対話を楽しめる「心の居場所」を日常的に育み続ける必要があります。
- ・ 全国から集まる支援の熱意を一回限りで終わらせず、小木・能登に関わり続ける関係人口の拡大や、将来的な移住・起業へ結びつける丁寧な伴走・案内機能が求められています。

4. 地域・課題に対するこれまでの取組

(1)緊急支援・対話交流によるコミュニティ維持(2024年～)

- ・ 温かい食事を通じた安否確認と寄り添い支援(炊き出し累計約3万食)。住民と食卓を囲む「お昼のえんかい」等を開催し、孤立防止と絆の再構築に貢献
- ・ 災害ボランティア(延べ5,000人以上)を受け入れ、復興作業と地域住民との日常的交流を創出

(2)子どもの居場所づくりと行政連携(2025年～)

- ・ 九十九荘等を活用した子どもの居場所づくりや不登校支援を開始。地元の保護者や町内会と協働し、能登町教育委員会や健康福祉課からの事業受託・連携体制を確立

(3)「梅の湯 心の湯わかし。プロジェクト」の推進(2025年～)

- ・ 歴史ある旧銭湯「梅の湯」を取得し、多世代交流スペース、カフェ、ゲストハウスを備えた復興ハブへ再生

5. 協力隊に期待すること

○期待する役割・ミッション

「地域の声を聴き、人と人をつなぎ、地域の『やってみたい』を一緒に形にすること」

単なる施設の管理人ではなく、小木の日常に入り込み、住民の小さな想いや可能性を見つけて繋ぐ「復興コミュニティの協働パートナー」としての活躍を期待しています。

(小さな対話から生まれる活動例)

「昔の小木の写真をみんなで見たい」→「昭和の小木写真館」

「郷土料理を若い人に伝えたい」→「郷土料理シェフ食堂」

「子どもたちに仕事の話をしたい」→「子どもと大人の仕事トーク」

6. 協力隊に求める活動内容

【1年目】

(活動テーマ)「聴く・知る・つながる」※地域理解・信頼構築期

- ・小木地区・能登町の風土、文化、歴史を知り、住民との顔の見える関係づくり
- ・日常的な声かけやヒアリングを通じた、地域の困りごとや「やってみたい」の把握
- ・「梅の湯」での現場サポート、子どもの居場所づくりやボランティア受入れ補助

【2年目】

(活動テーマ)「つなぐ・動かす・育てる」※交流・実践・仕組み化期

- ・「梅の湯」のカフェ・フリースペースを活用した日常的な賑わいと交流企画の運営
- ・地域の声を活かしたイベント企画(写真館、シェフ食堂等)の実施
- ・SNS等を活用した地域の魅力発信、関係人口・外部人材と地域ニーズのコーディネート

【3年目】

(活動テーマ)「仕事にする・自立する」※事業化・定着期

- ・3年間の活動で見つけた自身の強みや地域ニーズを活かした事業モデルの構築(カフェ運営、ゲストハウス、教育・福祉事業等)
- ・楽笑からの事業受託や自主事業を組み合わせた自立基盤(ベーシックインカム)の確立
- ・後任隊員や地域への引き継ぎ体制の構築

7. 期待する地域の変化

■住民の「心の温度」の上昇(定性的変化)

「梅の湯」が日常の立ち寄り場となり、多世代が気兼ねなく集い、会話と笑顔があふれる安心感が生まれる。

■子どもたちの愛郷心の育成(定性的変化)

地域の大人や全国から訪れる多様な人材との交流を通じ、地元への誇りと豊かな視野が育まれる。

■開かれたコミュニティと関係人口の定着(定性的・定量的変化)

外部からの支援者や若者を地域が温かく迎え入れる土壌が育ち、拠点来場者数の増加や定期的なイベント開催（月1回以上）、継続的な魅力発信が定着する。

8. 協力隊をフォローする人や団体

①受入母体(一般社団法人三重支援チーム楽笑)

代表・スタッフが日常のメンタル面・業務面を最も近い現場で伴走

②地域住民・保護者層

町内会や地元の母親グループが現場パートナーとして協働

③行政

能登町役場: 健康福祉課、教育委員会事務局、ふるさと振興課等との密な連携および事業フォロー

④外部ネットワーク（広域連携）

能登町定住促進協議会、教育・復興関連団体、全国の支援者ネットワークとの連携

9. 協力隊退任後の展望

リスクを最小限に抑えた「半受託・半起業(半NPO)」スタイルによる「3本の柱」で自立・定住を支援します。

(例：週3日は楽笑の居場所事業等の現場リーダーとして安定収入を得つつ、週2～3日は「梅の湯」でのカフェ経営や独自事業を行う自立モデル)

(1)自主事業による収入(起業)

「梅の湯」でのカフェ・サロン運営、ゲストハウス管理、体験事業等の直接収入

(2)楽笑からの事業受託・雇用(固定収入)

子どもの居場所事業等の継続運営を業務委託(または雇用)し、ベース収入を保障

(3)外部助成金・起業支援の活用

小規模事業者持続化補助金等の申請を楽笑が全面伴走支援

10. 必要な資格等

※募集要項に定めるもの以外

・ 基本的なPC操作(Googleworkspace、Word、Excel)およびSNS等を活用した情報発信ができる方

■求める人物像

- ・ 人が好きで、話を丁寧に聴ける方(傾聴姿勢)
- ・ 地域の伝統やルールを尊重し、明るく主体的に飛び込める方
- ・ 任期終了後も能登町に根ざし、暮らしと仕事をつくっていききたい強い意欲のある方

11. 勤務条件・待遇

○任用形態：一般社団法人三重支援チーム楽笑と雇用契約

○勤務地：能登町小木壺○字104番(みんなのコミュニティハウス「梅の湯」)ほか

○任用期間：令和9年3月31日まで。その後、原則1年ごとの更新(最長通算3年間)

○勤務時間・休日：週5日(月20日程度・実働7時間45分を基本とする)／週休2日制(土日祝出勤時は振替休日を取得)／年間休日120日以上予定

○報酬：月額 233,000円程度／賞与年2回予定

○住居：家賃自己負担なし

(能登町・楽笑が住居を用意または家賃全額補助 ※光熱水費等は自己負担)

○社会保険等：健康保険・厚生年金・雇用保険・労災保険へ加入

○経費補助：活動用車両貸与・燃料費支給、活動用PC貸与、研修旅費・資格取得補助あり

○その他：本業務に支障がなく、能登町および受入団体の承認を得た場合は兼業・副業可
(※正式な任用条件、待遇等については、雇用契約に基づきます)